

JIEA

城陽市国際交流協会設立15周年記念

2008年度 市民訪韓国

姉妹都市 慶山市へ

2008年6月6日（金）～6月9日（月）

경 제 33 회 경 산 자 인 단 오 제 축
The 33rd Gyeongsan JainDenoje-Festival



慈 仁 端 午 祭

< 2008年度市民訪韓団派遣団行程 >

2008年6月6日(金)～6月9日(月) 3泊4日間



目 次

6月6日(金)	城陽市役所 関西国際空港 プサン金海空港 慶山市長表敬訪問
6月7日(土)	慈仁端午祭見学 元暁聖師誕生 茶礼祭 会場見学 大邱大学博物館見学 演劇見学 慶山市立博物館見学 慶山市歓迎晩餐会
6月8日(日)	慈仁端午祭見学 端午祭オープニング公演 慶祝式 女円舞伝統踊り 海印寺見学
6月9日(月)	釜山市内見学 龍頭山公園(草梁倭館跡) 釜山タワー 国際市場 プサン金海空港 関西空港 城陽市役所

行程表・目次	1
団長あいさつ	2
プサン金海空港、表敬訪問	3
ちょうちん行列	4
石井温泉ホテル	5
元暁聖師誕生茶礼祭	6
慈仁端午祭	7
大邱大学、演劇	8
慶山市立博物館	9
〃	10
歓迎晩餐会、オープニング公演	11
慶祝式 女円舞	12
海印寺	13
龍頭山公園、釜山タワー	14
国際市場、コモド ホテル	15
感想文	16
〃	17
副団長あいさつ、派遣団名簿	18

大韓民国



< 宿泊先 > 石井温泉ホテル(慶山)
コモド ホテル(釜山)



慶山市を訪れて

城陽市国際交流協会
理事・訪問団団長
尾 崎 仁 三

協会では設立15周年を記念して市民訪韓団派遣事業の計画があり、団長として訪問することとなりました。慶山市から来られる方々から「是非、端午祭を見に来てください」というお話があったと聞き、端午祭への参加と2007年に開館した慶山市立博物館の見学、また世界遺産である海印寺の見学等を目的とし3泊4日の行程での訪問となりました。

慶山市と城陽市との交流は大変活発に行われており、毎年の行き来がなされていますが、協会事業としての市民訪問団は1996年以来12年ぶりのこととなり、公募を行い27名による訪問団を結成して出発しました。

慶山市の端午祭は3日間に渡り開かれる慶山最大のイベントであり、自然豊かな公園に大きなステージが設置されそのスケールに驚きました。オープニングは韓国語と英語訳のアナウンスが流れ、韓服を装った慶山市長からは訪問団が紹介され感激するとともに、国際的なイベントに育てようという意気込みが感じられました。歓迎晩餐会では副市長や市職員、またセマウル運動^{*}に携わる方々との交流のひと時も準備していただき、大変暖かいご配慮を受けました。

また真新しい慶山市立博物館では韓国の歴史に触れ、民俗の展示では日本の農村に類似した懐かしい思いを喚起され、ボランティア女性解説員の熱のこもった日本語の説明も親しみ深く感じました。

私にとっては初めての韓国訪問でしたが、釜山での最後の夜に大雨のため期待していたカラオケに行けなかったことと、ハングル文字が読めないため難渋したことが心残りであり、ハングルをもっと勉強して行くべきだと痛感した次第であります。

末筆ながら今回の訪問につきまして行事開催中にも関わらず歓迎していただいた慶山市の皆様に変更して感謝の念を申し上げ、団員とともに今後とも友好親善が続くことを願います。併せて城陽市の多大なご協力にも感謝いたします。

^{*}1970年に朴正熙大統領が提唱した地域開発運動。セマウルとは「新しい村」という意味。

「勤勉」「自助」「協同」を基本精神として、地域の近代化を政府主導で行った。

2008年6月6日(金)

城陽市役所を発ち プサン金海（キメ）空港に到着

・JAL967便にてプサン金海空港に着陸した。道路は広くバスは猛スピードで走る。高層ビルが並び町を過ぎると、形のいい山があり、山のそばには川がゆったりと流れている。川に沿って、白赤のツートンカラーの列車が走っている。絵になる風景の中をバスは走る。沿線の畑にはビニールハ

ウスが折からの太陽にキラキラ光っている。そんな中を一時間あまりで慶山市役所についた。距離的には近いけれど、やはり外国に来たのだと友好のために飾られた城陽と慶山の旗をながめた。



プサン金海（キメ）空港

・韓国では6月6日は特別な日。国の為に亡くなられた方を弔う日でした。この日一日、お酒を飲まないとのこと。繁華街もこの日はひっそりとしているそうです。私たちも戦火に倒れた方を思いながら禁酒しました。

・はじめての韓国、1時間20分程でキメ空港に着いたのにはおどろき、カンさんという日本語のとても上手なガイドさんに出会い、一声がここは治安がよくて犯罪はほとんどないと聞きほっとしました。今の日本がはずかしい。

・釜山金海空港15:30着で4時慶山市提供のバスにて一途中で気になったことですが、韓国の国旗が半旗になっているのが気になり、ガイドさんに尋ねると韓国と北朝鮮との戦争でなくなられた方々の命日にあたり6日(金)は休日とのことでした。

・初めての韓国―釜山のキメ金港空港から慶山市役所へ向かう途中、すれ違う自動車はすべて韓国の自動車会社製造の車であった。今回の韓国旅行の間、注意深く観察していたが、自分が見た車は、すべてが韓国産のもので、日本車や他の外国車は1台も見られなかった。徹底して国産車にこだわっているようだ。また、韓国の自動車はアメリカ車などと同じ右側通行(左ハンドル)だった。今回、現地へ行って初めて知ったことである。

慶山市役所を表敬訪問

市役所では市長表敬訪問をし、市長代理で副市長鄭炳允(チョン・ビョンユン)氏が訪問を受けました。慶山市職員の経済通商本部長 蔣永煥(チャン・ヨンファン)氏、経済通商本部投資通商チーム長 孫炳龍(ソン・ビョンニョン)氏、また当協会国際親善大使でもある徐漢植(ソ・ハンシク)氏等も参加。尾崎団長が橋本市長からの記念品、親書や協会からの記念品、また工藤副団長が友の会からの記念品等を手渡しました。



鄭炳允(チョン・ビョンユン) 副市長(左) 尾崎団長(右)

・副市長やたくさんの職員の方々に歓迎していただきおみやげも頂いて大変恐縮致しました。市役所の建物も立派で驚きました。普段では訪れない場所なので、楽しかったです。

・副市長さんの歓迎のお言葉、後ビデオで慶山市の文化農業等を紹介して頂きました。豊かな自然と気候に恵まれ史跡の多い都市で城陽市と共通するところがあるように感じました。

・慶山市役所で対応して下さったのは、副市長の鄭炳允(チョン・ビョンユン)さん以下の人々だった。副市長の鄭炳允さんは若く、大柄で名刺交換の時などでも体格的に圧倒された。進行(司会)係の人は声が大きく、日本語も上手だった。初めに慶山市を紹介したビデオを見せられた。

・今回で五回目の韓国に行くことが出来幸せに思っています。慶山市役所へ訪問では12年前に元市長(今道仙次様)とご一緒させて頂き、その時に植樹された木に会うことが出来たのは嬉しいことです。(木の前で写真を撮っていないのが心残りです)



慶山市役所の前で



・慶山市は新興産業都市、10以上の大学がある学園都市でビデオや市の冊子を見せて頂くと大変活気のある町と見受けられた。外国人向けの宣伝も上手だと思った。あらゆる面で京都府で唯一の姉妹都市咸陽市も頑張らなくてはと思う。表敬訪問では端午祭期間中で市長に代わり、副市長が対応してくださった。私たちが訪問した期間は休日にも拘わらず多数の方々に大変丁寧な扱いを受けお世話になりました。感謝いたします。

・休日にもかかわらず、私たちをあたたく迎えてくださり嬉しく思いました。

ちょうちん行列に参加

慈仁端午祭(チャインタノゼ)前夜祭イベントの提灯行列を市役所前にて見学しました。

・子どもから大人までたくさんの方々が参加しておられたので、びっくりしました。

・興味深く拝見しました。

・のぼりとちょうちんが一行で夕刻に行進最後尾にパトカーが一台着く。あまり静かなのでそれに驚いた。日本の精霊とうろう流しのように鎮魂の意はないらしい。

・チャインタノゼの前夜祭としてちょうちん行列があり、2kmあまり歩くそうです。しずかな行列でチョッピリ淋しい思いがした。



提灯行列の様子

石井(ソクチョン)温泉ホテル in 慶山

・高速道路の真下にあったが、騒音はそれほど感じられなかった。部屋はオンドル式で床面が暖かった。一部の部屋でトイレの水が詰まって困ったという話を翌日の朝食時に聞いた。このホテルはすぐ近くに移転する予定で、すでに近所に新しく建設中だった。

・オンドルの床の上に直接ふとんを敷いて2人で一枚を共有する。ふとんの数が初め足りなかったが増やしてもらった。2005年のバンクーバーを訪れた時も一つのベットに二人で寝たのを思い出した。朝床が暖かいのに気づいた。



石井温泉ホテルの前で

・ちょっとひどすぎました。

・お風呂は温泉で気持ちよく入浴できて良かったです。部屋は1日目は洗面所に石鹸とコップのみでしたが、2日目は洗面具（歯ブラシ等）一式揃っていました。布団も1日目は1組使用後のように出してありましたが、2日目は2組揃えてありシーツも取り替えてある様子がありました。日本のホテルと少し違う感じを受けました。

※慶山市内の宿泊施設が石井温泉のみで訪問時に改築中でした。予約等も含め慶山市にはお世話になりました。

2008年6月7日（土）

元曉(ウォンヒョウ)聖師誕生茶礼祭

帝釈寺(チェソクサ)での元曉(ウォンヒョウ)聖師誕生茶礼祭に参加しました。崔炳國(チェ・ビョングク)市長、尹聖圭(ユン・ソングィ)議長も参列し、訪韓団の紹介も受けました。



茶礼祭の様子

・余り時間がなかったのが・・・残念です。

・現地に到着するのが早かったのか、茶礼祭が始まるのが遅かったのか待っている時間が長すぎた。お陰で市長にも大阪の男性と地元の女性で博物館の解説をなさっているご夫妻に会えた。このご夫妻には慶山市立博物館でも会えた。

・三聖賢の1人慶山市生まれ、7C頃のウォンヒョウ聖師誕生茶礼祭に多くの住民が仏教の大衆化に力を注いだ同師の遺徳をたたえ集まってきましたが、日差しが強く誰しも腰をおろしたい時に先に椅子に座っている高齢者が自分より上の高齢者に席を譲るという「儒教の国」を垣間見る事が出来ました。

・茶礼祭の行われる寺へ、殿師聖暁元という間で祭りごとをしていた。1時間おくれのスタートであったが、いつ始まっていつ終わるのかチョット退屈でした。

・朝鮮で民衆に仏教を広めた一人であるウォンヒョウ聖師(日本でいう弘法大師か)の誕生を祝う茶礼祭。今年で誕生してから1391年となるそうです。慶山市長、副市長が参列するほどの茶礼祭。式典が始まるまで、大変待たされましたが、その間、多くの人がお参りする姿や裏方で奉仕する(ご飯?を準備する)姿を見て、韓国でも、日本でも、同じなんだなと、韓国を身近に感じることができる時間でした。



・国の文化の違いでしょうか、日本の献茶式は実際にお茶をたてますが食物から全てを献上の意味でしょうか?言葉は通じませんでしたが、様子で知ることができました。祭と式の相違でしょうか?

・伝統的祭りに参加でき良かったです。

・則天山帝釈寺の茶礼及び市長の挨拶は胸に響きました。



元暁(617～686年)

慶山三聖人のひとり

統一新羅時代の僧である元暁(ウォンヒョウ)の本名は薛誓幢(ソル・サダン)であり、慶山の押梁郡出身です。15歳の頃に出家して修道に精進しました。元暁は当時の風潮により義湘と共に唐に行く途中で宿泊した洞窟で骸骨にたまった水を飲み「真理は決して外に見出すものではなく、自分自身の中から見出さなければならない」と悟り義湘と別れて帰って来たエピソードは有名です。韓国仏教史に残る学者であると同時に思想家であり、当時の王室中心の貴族化された仏教を一つの真理での解脱を果たそうとする思想を広げました。後に瑤石王女との間に薛聡(ソル・チョン)をもうけました。

(慶山市ホームページから引用)

慈仁端午祭（チャインタノゼ）会場へ

・慈仁端午祭の行われている広場で色々の催しを見た。公園の中に長い長いブランコがあった。チョゴリを着たかわいい女の子がブランコに乗っていた。ゆらり、ゆらり、チョゴリが風に揺れて絵になる風景である。しばらくみつめていた。ガイドが来てこんな話をしてくれた。

昔、女性は家から出ることを禁止されていた。それで自分の家の木立にブランコを作ってチョゴリで顔をかくしながら一生懸命ゆらぐ、そして隣りの家とか外の世界を見た。

大変興味のある話だった。私が娘のころも実家の父は厳格だった。今の社会では考えられない位である。

今の慶山市の子ども達や人々はどんな生活をしているのだろう。興味がわくけれど何としても言葉が通じない。



大きなブランコ



韓国書道の展示

・タノゼ会場に行って、書「無言実践」というお言葉をいただきいいおみやげが出来た。

・大勢の人々でにぎやかでしたが言葉がわからず見ているだけでした。

・名言や家訓を著名な書道家の先生に書いていただくコーナーではお母さんが子どもに家訓の例文を選ばせておられて昔の風習が残っているんだなと見とれていると次の母子連れに順番を抜かされてしまいました。とても素晴らしいコーナーだと感心しました。城陽でも何かの機会に実現できればと思いました。



大邱(テグ)大学博物館を見学

・大邱大学博物館キャンパスの広大さ、美しさ博物館の立派さに圧倒されながら工事中の工芸名人の作品を見学。グーテンベルクより70年も前に印刷技術が発明されたこと、世界文化遺産海印寺の8万大蔵経の話などおしゃれな研究員女性に見とれてしまいました。

・日本の一松人形、高砂等を見学しました。

・新しく立派で興味深く拝見しました。



大邱大学博物館

韓国現代木工芸作家故朴星三氏の作品、収集物、日本人作家の作品も含む現代木工芸作品展の見学。またこれまでグーテンベルグによるものが最古とされていましたが、近年ユネスコに認知され改定された韓国の金属活版印刷「仏組直指心体要節」の展示などを見学しました。



・版画がどのようにして考え作られたかがとてもよく理解できました。



慈仁端午祭(チャインタノゼ) 演劇(マダングク)を見学

メイン・ステージで上演されたマダングク（演劇）を見学。慶山地域出身の元暁（ウォンヒョリ）聖師を題材とした内容。エンディングでは、崔炳國（チェ・ビョングク）市長と夫人も大きな拍手を送りました。



桂亭（ケジョン）森
慈仁端午祭（チャインタノゼ）の会場。多くの露店やブースが軒を連ねます。慶尚北道はもちろん韓国でも珍しい自然森林で、丘陵地にある天然森林です。

慶山市立博物館を見学



慶山の三聖賢

- ・博物館めぐりは楽しかったです。ガイドさんの丁寧な説明が良かったです。
- ・城陽市にもほしいものです・・・
- ・韓国の歴史、当時の生活様式等通訳の方がよく説明され又沢山の資料が展示されていた。
- ・昨年2月頃の開館ということでした。大変大きな建物でびっくりし、入場料大人1000ウォン（約100円）これからの維持が大変だと思いました。



・博物館を2つも続けて見学してどうか？と思ったが、大邱大学博物館では主に近代の著名な彫刻家の木彫家具などを見学し、慶山市立博物館では庶民の生活道具を中心とした歴史民俗史料を見学した。慶山市立博物館では、日常生活の様子をリアルに再現したコーナーがあり、とくに戦前・戦後の日本の農村に類似した展示品には、懐かしい思いを喚起され、非常に面白かった。また、初老の女性解説員の説明は熱がこもり、その思いが伝わってくるようだった。

・遅い時間に着いたにもかかわらず、日本語ボランティアの元気なおばさんが情熱的に説明してくださって良くわかって楽しめました。立派な博物館があることは13もの大学を有する市として当然とはいえ素晴らしいことですね。



- ・新しく立派な博物館で驚きました。
- ・解説者が日本語でていねいに1つずつ解説くださった。毎日2時間程は日本語の勉強をなさっているということで感心した。韓国の昔の風俗が興味深かった。
- ・静かで大きな敷地にある慶山市立博物館、1世紀頃の考古遺物である土器、鳥形冠飾、金銅冠が展示。金銅冠は勾玉や美しい貝、金細工で装飾されきらびやかで美しいものであったと想像できますが隣の国立慶州博物館で再現された金冠が見られるのではないかとちょっぴり残念。
- ・両博物館ともすばらしい展示に感動しました。まず、城陽市との違いは土地が広く、建物（特に市立博物館）の大きさ、展示室のゆったりさにびっくりしました。
- ・館長さんをはじめ職員さん方がお休みににもかかわらず、親切にむかえてくださったことがとても印象的でした。

・皆さんより一足早く工藤友の会会長とともに博物館に行き、金館長とお会いしました。非常におおらかで、人当たりのよい金館長とお会いでき光栄。友の会より贈呈した重要文化財「銅釧」（レプリカ）も博物館で展示してもらえるとのことで非常に喜んでいます。今後、資料館と博物館の交流ができるよう努めていきたいです。展示室は、昨年できたとのことで真新しく、ジオラマを多く使用した展示室となっており、民俗、朝鮮三国時代から近代、古代から押督国時代の3つの展示から構成されていました。

・以前に見学した韓国の民族村の小型版でしたが、展示物及びレイアウト共、非常に丁寧な構成で興味深いものでした。

「慶山市立博物館」にて思う

友の会 村上直美

辰韓12カ国の一つ「押監国」いまの慶山は「新羅千年の都」慶州に隣接して、早くから新羅の構成メンバー国となり「新羅統一」では前哨基地として活躍した歴史があります。この歴史ある慶山の博物館に、閉館一時間前に飛び込みました。

館内は近代から青銅器時代へと三つの部屋に分かれていて、特に第三展示室には思いがけない品々に次々と出会いました。

16年前に京都博物館で「伽倻文化展」がありました。その折に出展されていた慶山林堂洞古墳群（6世紀）の「銀製鍔帯腰佩」と「金銅冠・出字形冠」に再会することができました。現地で拝見しますと京博では感じなかった「足が地についた威厳と風格があり・・・」「オー！」とガラスケースに顔を打ちそうになりました。

出口に近いところに石器時代の「半月形石包丁」が展示されていました。「石包丁」は稲作業に欠かせない穂摘の道具です。弥生前期末の日本の遺跡から多く出土する「立岩製石包丁」と「大きさ・形・重さ」が良く似ています。稲作と共に朝鮮半島から伝わって来たものと思われるが、この大きさ・重さ・形、が道具として使い勝手が良いのであれば慶山人も倭人も良く似た体格・体力だったのかなあ・・・と覗いて見ていました。

青銅器時代のコーナーに紀元前二世紀の朝鮮式銅鐸がポツンと展示されています。

日本の銅鐸にある「緒・鋸歯紋」がありません。朝鮮式銅鐸は大田塊亭遺跡で出土している様に「銅鐸・細紋鏡・剣」が一緒に出てきます。セットで呪術的な役割を果たしたものと思われる。日本に伝播してから銅鐸と細紋鏡が一体化して朝鮮と



同じく呪術的に使われたものと思われます。

「日本の銅鐸」の起源は朝鮮式銅鐸と細紋鏡から出発した可能性が大きい。紀元前二世紀の本場の「つるっと！」した銅鐸を写真に撮りました。

この第三展示室で目が釘付けになったものがあります。「素弁八蓮華文軒丸瓦」です。「飛鳥寺創建瓦」とよく似た瓦だからです。

日本書紀588年3月、百濟から「瓦博士」が招請されました。物部氏との50年の長きにわたる「崇仏・廃仏」の争いに勝ち、馬子は飛鳥寺、聖徳太子は若草伽藍、四天王寺の建立の為の「瓦博士」です。

わが国では、飛鳥寺の建立、続いて四天王寺創建にいたって初めて本格的な仏教寺院の建立が開始されました。端緒は蘇我氏の氏寺として着手されましたが、工事進捗過程で推古天皇をはじめ国家的権力の導入があり「飛鳥仏教」が「国歌仏教」として性格付けられてきました。

法隆寺の北東に色鮮やかな三重の塔が建つ「法輪寺」があります。聖徳太子のゆかりの寺です。この塔の基壇下層からも「素弁八蓮華文軒丸瓦」が出土しています。

慶山の「素弁八蓮華文軒丸瓦」がどこから出土したのか分かりませんが、慶山のパンフに創建690年の「仏窟寺」の写真が掲載されていました。私は密かにこの「仏窟寺」を候補にホクソエンであります。

また、慶山を訪ねる日があれば、この「素弁八蓮華文軒丸瓦」が出土した場所に立ちたいと思います。

歓迎晩餐会に出席

・夜は慶山市による歓迎晩餐会が副市長以下のメンバーで盛大に催された。セマウル運動の関係者が多いのが目についた。市のセマウル文化課長、セマウル奉仕担当者、セマウル運動慶山支会長、セマウル指導者慶山市協議会会長、慶山市セマウル女性会会長・副会長、セマウル文庫慶山市支部会長といった人々である。どうやら慶山市では、国際交流をセマウル関係者に委ねているようだ。宴会は畳敷きの部屋で行われたが、日ごろ畳の生活をしていないため、足や腰が痛くて往生した。宴会で意気投合したのか、慶山市の参加者の一人が吉川さんと一緒にホテルまで同行するといっってバスまで乗り込んできたのには驚いた。

・快く迎えて頂きました。



・歓迎晩餐会には多くの方々が来て盛大に。

・夕食は晩餐会があり、言葉がしゃべれたらなあ
と残念でした。食事はおいしかった。

2008年6月7日(日)

慈仁端午祭(チャインタノゼ)オープニング公演、 慶祝式 女円舞(ヨウォンム)に参加

オープニング公演に参加、民俗舞踊、開会式典、洗髪式、女円舞(ヨウォンム、韓国無形文化財)等を見学しました。開会式典は英訳アナウンスも流れ、国際色の豊かなお祭りでした。慶山市長の挨拶では城陽市から市民訪問団を迎えていることを紹介していただきました。

・オープニング公演の時間の使い方が緩やかでした。美しく着飾った大勢の出演者で盛り上げていましたが、言葉がわからないのもどかしく思いました。立派な特別席のイスに座らせてもらってまわりの市民の方が草地にぎっしり座っておられ何だか申し訳ない気持ちになりました。少しでも交流できたらなと思いましたが、お母さん達の無言の圧力、迫りに挨拶もできずちょっと残念でした。家族が広い会場の木陰に散らばってくつろいでいる姿はとても楽しそうで市民のお祭りだなと感じました。又、会場で市長さんご夫妻に会え握手できました。

・いろんな催し物が見たかったが、時間の使い方が悪かったように思う。集合場所、時間等徹底して自由時間が欲しかった。

・慶山でも最大のお祭りで沢山人々でにぎやかでした。京都の時代祭りを想像するようでした。



菖蒲洗髪の様子

・端午祭オープニング公演、たくさん店が出ていたので買い物もしたかったのですが時間がなく残念・・・オープニング時に国歌が演奏された時には韓国の人達が胸に手をあてておられたのにはびっくりしました。我が国では国歌が演奏されれば座る人が多いのでさびしい気がします。

・午前中、端午祭の慶祝式を見学した。快晴の青空の下、文化広場の特設会場の大ステージ上に市長はじめ主だった人々が椅子に座って勢揃いしている。広い広場をへだてて対面する観客席はテントの下にあり、すぐ横手の林から涼しい風も吹いてきて快適だったが、ステージの方は天井が高くもろに日が当たって暑そうだった。市長のスピーチは韓国語と英語で行われ、何を言っているのかチンプンカンプンだったが、「城陽市……オザキヒトミ……」の箇所だけははっきり聞き取れた。われわれの訪問を歓迎してくれていることを知り感激した。文化広場では、端午祭オープニング公演が行われ、色とりどりの民族衣装で着飾ったたくさんの人達が次々に登場し、女円舞(ヨウォンム)伝統踊りなどを演じてくれた。馬も何頭か登場して広場を一周したが、小さな車輪の付いた木製の馬だった。かつては生きた馬を使っていたのだろうか？

・あれほど大がかりとは考えていませんでしたので、正直ビックリしました。古来より伝承されている郷土の誇りを後世に伝えていこうとする姿勢は胸に響きました。又、海外へでは自分自身の国のことを考えるものですが、端午祭の冒頭に国歌が流れ観客の皆さんをはじめ、参加者も唱和されていましたが小生の胸を打つものがありました。



・興味深く楽しみました。

・外国人ブースでの式典見学には参加せず、一人単独行動。とりあえず、会場を一周。多くの出店や書道・染物・陶器・拓本など無料で体験できるブースや福祉募金のブース、健康診断のブース、博物館のブースなど、多くのブースが立ち並んでおり、家族連れやカップルで賑わっていました。慶山市の熱気と活力を感じることのできるお祭でした。式典に参加する踊り手の女子高生にカメラを向けると、恥ずかしがり、顔をそむける。これって万国共通？

・演劇は言葉が通じなくて、内容がわかりませんでしたが円舞等の衣装のあざやかな色彩は印象的でした。



女円舞 (ヨウォンム、別名韓將軍ノリ、国家重要無形文化財第44号)

昔侵入した敵が到天山に陣を張って民衆を苦しめました。韓將軍は敵を引きつけ打ち破るために女装をし、妹と共に派手な花の冠をかぶって山の下のボドゥル池の堤で芸人たちと宮廷音楽に合わせて踊った。その踊りの華やかさと音楽に油断した敵に対し刀をぬいて打ち破った故事に由来し、その踊りを女円舞と言う。

海印寺(ヘインサ)を見学

慶山市からの所用時間1時間20分。山中で老木、巨石の景観が素晴らしく落ち着いた雰囲気の寺院です。八万大蔵經、大蔵經板殿（共に世界遺産、国宝）、大寂光殿などを約1時間見学。見学最後には夕立にあいました。

・世界遺産だけあって見応えがあり、良かったです。奈良の正倉院とつながりがあることを知って大変興味深かったです。

・朱印帖を忘れたので残念です。又行けるかな・・・

・世界遺産といわれる古い寺でたび重なる火災にもかわらず1817年建立以来そのままの状態で見学保存されていた。



・溪谷を清流が流れうっそうとした道の樹木は大きく大きく1200年の歴史を感じました。人口の30%が仏教徒とか、きれいな彩色模様のある山門、世界遺産伽倻山海印寺（ヘインサ）は八万大蔵經の版木があることで有名、奈良正倉院と同じように風通し良く埃がつかないように工夫され、未来に残さなければならない遺産だと思いました。

・広大な山地にいくつもの堂塔が連なりまさに大本山海印寺！世界文化遺産八万大蔵經は本当にすごい量でした。私は社寺の朱印を集めるのが好きで書いてもらえる場所がわからなくて夕立の中右往左往。やっと見つけて書いていただきましたがお坊さんではなくておばさんがしまいかけていた道具をバッグから出して書いてくださいました。とても嬉しく有難く集合時間を気にしながら痛む足を引きずってバスにもどりました。少し遅れましことお詫び申し上げます。



・世界遺産の大蔵經板閣が印象に残った。平行に建てられた二棟の窓の作りに工夫があり大蔵經を保管している。日本の正倉院を想った。唯一この地で激しい雷と雨に見まわれた。

・大変良かったが雷でゆっくり見学できなかったのが残念。



工藤ご夫妻と国際親善大使の徐漢植（リ・ハンソック）さん

・海印寺は世界文化遺産として、すばらしいと感じました。もう少し時間があれば海印図（曼荼羅）回りを体験したかった。

・期待通りで素晴らしいものでした。



・伽倻山海印聖地は広大な敷地で、とても一日では廻りきれないところである。日本で言えば高野山の様なところである。海印寺には、世界記録遺産である八萬大藏經(大藏經はお釈迦様の教えを体系的に集大成したもので、その版本が合計81,258枚)が納めてある蔵經板殿(ユネスコ世界文化遺産)がある。大戦火に見舞われた朝鮮において、その戦火から免れた蔵經板殿と大藏經、これは奇跡としか言いようがない。仏のご加護があったのか。大藏經を長く保管するための工夫が、大藏經と蔵經板殿に施されている。その智慧と工夫に驚かされました。



龍頭山公園、釜山タワー

・釜山タワーからは釜山の町並みが一望でき、昨夜泊まったコモドホテルの独特の様式の屋根も見えた。天気が良ければ対馬も見渡せるという。公園内には、先日「歴民友の会」で訪れた雨森芳洲も住んだという草梁倭館跡の石碑があり、その碑の前で一行の集合写真を撮った。この辺り一帯はかつて日本人街があり、商店や住宅が幾棟も建ち並んでいたという。この高台に住んだ日本人達は、眼下の対馬海峡を眺め望郷の念に駆られたことと思う。



釜山タワーからの眺め



草梁倭館跡の石碑前で

・釜山タワーの展望台に上り釜山の港を一望できた。釜山港より（ガイドさんの話によると）九州、大阪方面に船が往来している。魚も豊富。

・龍頭山公園に行き草梁倭館跡を見学し、タワーに上り市内を一望、ビル、ビル、ビルで380万人の住む町だなぁと感じ入りました。



釜山タワーの前で（右）



・良いホテルだったのでゆっくり過ごしたかったです。

・コモドホテルに泊まり、なぜかホッとした感じを受けました。建物も美しく、ベットの部屋と朝食で韓国のイメージを感じませんでした。



・国際市場は楽しく買物するより見て歩くのも楽しかったです。

・国際市場での買物が楽しかった。食事は全食ともおいしく頂きました。又機会があれば行きたいのですが・・・「足」が大丈夫かな・・・心配です。

・国際市場では迷子になる位よく似たお店が出て、びっくり。又、店員さんの日本語が上手で、空港近くのお店で買うといいよとガイドに教えてもらっていたが、日本語につられて買物をしてしまった。

・釜山の国際市場では、靴下・メガネ・カバンなどの日用雑貨を中心に雑多な品物が狭い店頭所に狭しと溢れていた。1500軒以上の店があるという。アーケードがないので頭上から照りつける真夏の太陽は暑かった。商店街の中に珍しく寺院があったので立ち寄って一服したが、集合時間が迫っていたのですぐに立ち去らねばならなかった。汗を拭き拭き急いで集合場所にたどり着いたら、いつの間にか集合時間が1時間繰り下げられていた。

釜山近郊には高層マンションが目立った。それも並大抵の数ではない。20階～30階もあるかと思われる高層マンション群がぎっしりと建ち並び、それが数キロメートルも続いていた。地震のない土地だから、こういうことができるのだろうか。

・様々な国の商品がありとても楽しい市場でした。

国際姉妹都市 韓国慶山市を訪ねて

川瀬国三郎

今般市民訪韓派遣団に夫婦で参加して詳しく慶山市を見学することが出来有難く市当局のご配慮に厚く感謝いたします。

私の感じましたところでは、姉妹都市を結ぶには産業、人口、市域等が同じ程度のものが結ばれるものと認識しておりましたが、人口、道路、大学その他の整備状況からみて慶山市の方がはるかに勝れているように思いました。特に第3日目の端午祭のショーは多彩で見応えがありました。海印寺は日本の寺院よりも中国の寺院に似ているような気がしました。境内は広く起伏に富み広く建造物の配置、参詣者の作法、仏像、仏具などをじっくり研究したかったが、上っ面だけをみるに終わ残念でした。その他釜山の活況、その間のマンション群等をみるにつけ韓国人のバイタリティーをひしひしと感じました。

自動車の数と種類の多いのをみて、トヨタ、日産もうかうかしてられないなあと思いました。

私事になりますが、以前私は商社に勤務しており駐在や出張は30カ国余りになりますが一番近い韓国は初めてで大変勉強になりました。

もう一つの姉妹都市バンクーバーはてっきりカナダのバンクーバーと思っており、これも商用で北洋材の買い付けにしばしば出張していたので特に行きたいとは思っていなかったのですが、アメリカ、シアトル近郊の町と聞き交流協会では是非訪問団を作っていただき、参加したいと思っています。

最後になりますが、今回の計画と実行にご盡力をしていただいた国際交流協会の会長様はじめ関係各位のご努力に厚く御礼申し上げます。

2008年度市民訪韓団に参加して

工藤和成

1. 全体の感想

これまで業務出張、観光旅行のいずれにおいても韓国を訪れる機会がなかったので今回の初めての訪韓は私にとって非常に意義深いものであった。中国との関わりや漢字文化の歴史という共通・類似点を有し、地理的にも最も近隣の関係にあり、産業・経済においては良き競争相手である韓国であるが、実際に現在の状況を観察し、相違点や共通点を色々と学ぶ事ができた事は貴重な体験であった。なお、言語の件、英語や漢字の併記は思った以上に少なく、次回の機会には少しはハングル語を勉強してから訪韓すべしと反省した次第である。

2. 慶山市

姉妹都市慶山市が順調に発展している事は慶賀の至りである。“Dynamic Gyeongsan”のスローガンがその通り感じ取れた。特に、人口やインフラの増大のみならず、大学・文化のまちというイメージを明確にしてのまちづくりの推進に敬意を表したい。今回の旅行では慶山市より格別な待遇を頂いた。バスの便宜、スケジュール企画、担当者の同行、表敬訪問セレモニー、歓迎晩餐会など心温まるお世話を頂いた事に対し厚く感謝を申し述べたい。今回の交流でお互いの友好関係、信頼関係を深める事ができた事を非常に嬉しく思う。慈仁

端午祭の会場で崔市長ご夫妻と2度も挨拶を交わす出会いも会った。慶山市とのかような深く強い友好関係はこれまでの相互の活発な交流により構築されてきたものであるが、今回の訪韓団の一員として今後の更なる友好関係の推進に向けて努力していく責任がある事を痛感した次第である。

3. 旅行スケジュール

博物館2館、海印寺はいずれも素晴らしく、端午祭も興味深いものであった。高層マンション林立の大都市釜山、ユニークな石井温泉ホテルも印象的であった。時間的にも余裕があり、分刻みで動き廻るスケジュールでなくて良かったと考える。韓国料理を集中して頂いたのも初体験であったが、大変美味しく満足であった。好天にも恵まれ、充実し、意義の有る楽しい旅行であったと総括したい。

尾崎団長はじめ団員の皆様には色々とお世話になり誠にありがとうございました。事務局の大久保さん、松島さんは準備、旅行中の世話役で大変忙しかったと思いますが、そのご努力に敬意を表しますとともに厚く御礼を申し上げます。ご協力いただきました城陽市役所の関係者の皆さまにも厚く御礼を申し上げます。

慶山市は“師”か“親”か

澤井敏郎（寺田北東西）

50数年前、朝鮮戦争で丸裸になった韓国の山々に、昭和40年代、日韓講和時の「経済協力金」を活用して、当時の朴大統領は全国の禿山に植林を強力推進した。それから40年を経た今日、韓国は緑に包まれた国家となった。北朝鮮との差は余りにも大きい。政治の結果の差は歴然で恐ろしい事だ。日韓の若者達はこの事実を余り知らないのは残念だ。私が初めて韓国を訪問したのはアジア木材会議に出席した1973年（昭和48年）はまだゴロゴロとした岩山多く、寒々しい国という印象だった。それから数回、京釜高速道路を走る車窓から、年々樹木が生長し、緑に包まれてゆくのを興味深く眺めていた。今回漸く国際交流協会と資料館友の会のメンバーとして慶山市を訪ねる機会に恵まれ、3年

前の米国バンクーバー市の訪問とを合わせて、わが愛する城陽市の現状を見つめ、考え直す機会となった。

1991年（平成3年）人口85,000人の城陽市が、発展性の大きな行政を見込んで、当時僅か65,000人の慶山市と姉妹都市盟約を結んだ今道仙次元市長の炯眼（けいがん）を改めて評価したい。それから17年後の今日、城陽市は人口80,000人割れが目前。城陽と同様に遺跡、古墳の街を誇る慶山市は周辺の郡の町村を統合し、現在人口240,000人を超す中堅都市となった。13大学、140の大学付属研究所等、多様な施設の拡充、教育都市として世界一を目指す立派な市となった。市制案内冊子「ダイナミックCity慶山」は

素晴らしい内容だ。

日本は高度成長期が終わり、民間企業は潮目の変わった事を察知し、経営戦術や戦略を転換し、対応策を終えようとしている今日、どうも行政の感覚はにぶすぎる。例えば民間の赤字会社はボーナスゼロが当たり前。役人は不成果、赤字でも平気な顔でボーナスを受取っている。民間企業在籍40年間、不思議だった。

例えば議員の定数を例に挙げれば、僅かに減員したという城陽市議会の定員は22人。慶山市16人。16万人人口のバンクーバー市は6人。体制が違うとはいえ、黒字体質なら許せるが、合併もせず、納

税可能者人口の増加もなければ、市の体力は急速に低下してゆくのは必然。今までの延長線上での無策なれば税金ドロボーとよばれても仕方あるまい。「やすらぎのまち、ねぼけのまち」と揶揄されたくない。姉妹都市、城陽はまだ姉さん気取りの人がいる。今や親子盟約、師弟盟約として慶山市に学ぶことあっても、城陽に学ぶこと何ありやと感じた慶山での3日間であった。

大阪府橋下知事（38歳）を見習って、当市の若手議員と市職員の奮起を期待する。

今回の訪韓に当って日韓双方のお世話になった皆様、有り難うございました。（2008. 7. 31記）

慶山市立博物館研修旅行

久内通義

大韓民国慶山市への旅は、6月6日9時に梅雨らしからぬ陽光の射すなかを城陽市のバスで出発した。

慶尚北道慶山市に残された考古と文物の旅は遺跡の数々を巡るというロマンに満ちた行程で一行は27名。

端午節は旧暦5月5日をさし、韓国の伝統的な名節の一つである。旧暦5月5日は本年の6月8日で端午の代表的な風習は毎年陰暦5月5日の端午を前後した三日間は韓墓大祭。女円舞、菖蒲湯での洗髪ブランコ乗りなどの行事も共に開かれる。

6月8日文化広場で10時25分から慈仁端午（菖蒲をゆでた湯）で顔と髪を洗うことである。女性はこの日頭痛をなくすためにこの場でこの湯を飲んだ。端午の最も代表的な風習である。

端午に行う民俗的な遊びはブランコ乗りが最も代表的である。女性が彩り豊かな韓服で綺麗に着飾り、ブランコをこぐ姿は、李朝時代女性が露出すると男の誘惑があり、ブランコに乗ったとき男が接近してきたので正装して女性はブランコに乗った。

子どもたちはじゃんけんで乗る順番を決めていた。グー、チョキ、パーと日本式である。じゃんけんは日本から朝鮮へは明治になり「統治時代」に伝播したのではないかと思った。帰国して歴史民俗資料館の学芸員薄井さんにじゃんけんのルーツに

ついて調べてもらった。じゃんけんは元禄年間に長崎を通じて中国より伝来した拳遊びが、酒席で遊ばれ天保年間に盛んになり、明治中期に現在のじゃんけんとなったと考えられる。（明治5年説もある）明治43年（1910年）韓国併合があり、朝鮮へのじゃんけんの伝播は明治以降と考えられるが、その際「紙」が「布」に置き換わった。

午後より慶山市立博物館を見学する。ボランティアガイドの孔点淑さん（日本語通訳士）の案内で分かりやすく展示解説をいただいた。日本人来館者も増えており、日本語による展示案内板も必要であると思われる。第一展示室は1960年代の慶山の農業生活がうかがえる。様々な農機具、雨乞い祭などが展示され日本の農業生活は韓国より伝来したことがうかがえる。

第三展示室は青銅器時代の遺物が展示されている。林堂洞古墳群（史蹟300号）は三国時代の古墳群で、出土された土器類が調査され床面下に出現状況を再現展示されていた。城陽市歴史民俗資料館は芭蕉塚古墳、山道東古墳出土の埴輪列を調査が済み次第復元出土状況を展示すべきである。

参加した友の会会員14名は韓国の歴史のふるさに思いを寄せることが出来感動の一日を過ごせて幸せだった。

市民訪問団に思うこと

2008年訪問団副団長

J I E A顧問 工藤香代子

韓国は日本に一番近い外国である。我国の文化を学ぶとき、そこには必ず仏教文化があり、朝鮮半島の国々と九州地域との交流の歴史にたどりつく。

城陽市は1991年に大韓民国慶山市と姉妹都市盟約を締結しました。韓国自治体との提携は京都府下初で、両市にとってお互いに最初の姉妹都市でした。これ先立って時の城陽市国際交流懇話会は密陽市、大邱市、慶山市を候補地として上げておりましたが我市と共通点の一番多い慶山市に決定。当時の慶山市の人口は城陽市より下にありましたが現在では24万人、13大学校をもつ大都市になりました。私はこれまでに数回訪問させて頂いているのですが、その度に活々として近代都市に進歩していく様子に驚きを覚えておりました。そして、昨年2月に市立博物館が近代的建造物としてオープンされたのです。慶山市の歴史民俗を知ることが古代新羅・百済などの遺跡や遺物を学ぶことでもあり、我国とのルーツを知る最も興味深い道でもあります。この度の第33回慈仁端午祭には前夜祭の提灯行列から参加させて頂き、式典では城陽市民訪問団の紹介が慶山市長から韓国語と英語で発表していただいた。以上のことから今回のJ I E A設立15周年記念の訪問団は意義があり、そこに参加できたことは私の喜びであります。また釜山市龍頭山公園の一部に建立されている「倭館」跡の碑には、江戸時代に対馬藩に仕えた儒教学者雨森芳洲の日韓交流に尽くされた「人となり」が偲ばれ感無量でした。芳洲は外交の精神を「誠心の交わり」にあるとし“互いに欺かず、争わず、真であること”としたのです。この言葉が、いつの世にも通じる国際交流の基本でありましょう。城陽市と慶山市の幾久しい平和を念じ、孫子の代まで親しい交わりを続けたいものです。お世話になりました市長さん副市長さんはじめ市民各位やこれまでに逢った慶山市中学生徒さんの顔・顔が浮かびます。カムサハムニダ！！

2008年8月

2008年度市民訪韓団派遣団 参加者

尾崎 仁三（団長、協会理事）

工藤 香代子（副団長、協会顧問）

石井 里枝、梅原 恭仁子、奥西 昭代、小倉 恭子、嘉住 佳巳、川勝 俊彦、川瀬 国三郎、川瀬 信貴子、工藤 和成、佐藤 公美、澤井 敏郎、篠原 充子、島崎 博、田中 陽子、出口 登喜子、久内 通義、藤井 美代子、宮園 智子、村上 直美、村上 弘芳、村上 弘子、吉川 雅智、渡邊 郁代、大久保 雅由、松島 奈々江

（氏名は五十音順）

我行く道(吾道)

聖人と凡人は異なる道だ。聖人は生きる道、衆生は死ぬ道を行く。聖人、凡人ともに道を行くことは同じだが、聖人は生きるために、凡人は死ぬために道を行く。

聖人は自らを良く生き、後生衆生の模範になる大きな足跡を残すが、私達凡人は無駄に急ぐことにより死の門に到達するしかない。つまり迷う人は迷いの道を行くと言われる。

人々よ！何をすべきか、何処に立つべきか…己が進む道を少しも築くことなく、漠然と幾千万の時間を望んで、何をしようとするのであろうか。

聖人は自分自身が描いた足跡を省みる。私達凡人が物欲と苦痛の海に溺れる時、誰が手を差し伸べてくれるというのか。

人々よ！日々三度、自分の影を省みて下さい。

出典：佛門寶鑑 李性壽著

元曉聖師誕生茶礼祭のために訪れた
帝釈寺でいただいた本の一部和訳です

発行：城陽市国際交流協会

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4 西邦ビル2F

TEL: 0774-57-0713

FAX: 0774-55-0560

E-mail: office@jiea.jp

WEB: <http://www.jiea.jp/>